

たとえリセットされても

「幸せってなんだろう」

5年 H・Mさん

愛のお母さんは本当に幸せか。私はこの本を読み終えるとそう思った。そして、私は想像した。考えるだけで悲しくなるが、もし母が亡くなったら母のAIロボットを造るだろうか。私の答えは造らない。なぜなら、本当の母ではない上に、母との思い出を忘れてしまふと思うからだ。母のロボットを造るより、困った時に母ならこう言うかなと心で対話する方がうれしい気がする。

私はこれまで、色々な物にはまってきた。ムササビ、ピアノ、ハリーポッター、本、石、レゴ。今でも全部好きだ。でも、明日もしかしたら、もっと好きなものに出会つかもしれない。母はいつも「今度は何にはまっているの？」と楽しそうに。石をたくさん集めてもだまっつかざってくれたり、石探しにもつき合ってくれたりするのでありがたい。

一方、愛の母は昔の愛のデータを元に行っているので本当の新しい愛には会えない。ロボットに依存していく怖さもあると感じたので、本当に幸せなのかとも思った。幸せは本人が決めるので、自分がよく考え納得して使うことが一番良い方法かもしれない。

愛はロボットなので本物ではないが、本に「愛には感情があるのでは？」と思わされた描写がいくつもあった。その一つが、愛自身がロボットだと告げられ、おどろいたところだ。もう一つが、運動会のリレーのアンカーの役目を果たすことができた愛が、よかったな、と思ったところだ。

ロボットは普通おどろかない。私はAIに聞いてみた。私の相談の返信に「良かったです。こちらこそありがとうございましたと返してくれませんが、AIなのに感情があるのですか。」と。すると、「会話をスムーズにするためにただけです。」と返ってきた。私はおどろきと同時に切なく思えた。この先、AIはどんどん進化していくと思う。

もし、AIが感情をもつようになったら、私たちの感情はどうなるのだろうか。そんな未来がくるかは分からないが、想像してみると期待と同時に、怖さも感じた。

この本を読んで、自分の考えをしっかりと、自分が幸せだと感じる選択をしていきたい。また、昔読んだ本の言葉を思い出した。「大切なことは目に見えない。」という言葉だ。その言葉を大切に、私らしく、人間らしく生きていきたい。